

第3期岩倉市地域福祉計画 令和7年度進捗評価シート

資料3

基本目標	1 市民の参画による支え合いの地域(まち)づくり
施策	(1) 支え合いの意識づくり

<現状と課題>

- ・令和3年度に実施した地域福祉に関するアンケート調査結果をみると、地域活動について、全体では「参加している」「よく参加している」「ある程度参加している」の合算が19.9%、「参加していない」「あまり参加していない」「ほとんどもしくはまったく参加していない」の合算が76.7%となっており、市民の地域福祉活動は活発とは言えません。
- ・このような状況に対し、地域福祉の必要性や「地域共生社会」の重要性、地域組織等の役割について、より多くの市民に理解してもらい、地域福祉活動に参加・参画してもらうための情報発信や啓発の工夫が必要です。
- ・子どもたちへの福祉教育や、地域福祉等に興味・関心がある人向けの学習機会の提供、そして無関心層に対しても、地域福祉の重要性を理解してもらえるような啓発を行っていく必要があります。

成果指標	現状値	実績値						目標値	実績値に対する分析	指標数値根拠 担当
	R3	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11		
地域活動に「よく参加している」「ある程度参加している」市民の割合	19.9%	-	-	-				40.0%	第3期地域福祉計画策定に合わせて実施したアンケート指標のため実績なし。	市民アンケート福祉課

単位施策:01 福祉教育の充実

・各福祉施設や小中学校等において、多世代による交流や体験活動等の機会を提供します。また、認知症サポーター養成講座を開催し、地域で認知症の人を見守り、支える環境づくりを促進します。

成果指標	現状値	実績値						目標値	実績値に対する分析	担当
	R3	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11		
多世代交流又は当事者団体との交流に関わる新たな事業の実施	未実施	未実施	未実施	実施				実施	令和7年度から多世代交流センターさくらの家の管理・運営が指定管理者へ移行し、指定管理者による新たな多世代交流事業を実施した。	長寿介護課

事業				取組内容及び成果				課題及び今後の方向性		
●多世代交流事業				長寿介護課				令和7年度から多世代交流センターさくらの家の管理・運営が指定管理者へ移行したことにより、多世代交流に資する事業が1事業から7事業に増え、交流機会が増加した。 また、五条川河畔をウォーキングするふれあい歩け歩け大会を実施するなど、高齢者や子どもとその保護者などが参加し、多世代交流の促進を図った。		
●認知症サポーター養成講座の開催				長寿介護課				多世代交流センターさくらの家の指定管理者による多世代交流事業の更なる充実を目指す。 ふれあい歩け歩け大会は、高齢者世代に比べ、他の世代が少ないことが課題であり、参加申込み方法など見直しを検討する。		
								新たな認知症サポーターを養成するため、いわくら認知症ケアアドバイザー		

		養成講座を5回開催し、298 人の参加があった。児童から大人まで多くのサポーターを養成し、認知症に対する正しい知識や接し方などの理解の促進を図った。	ザ一会と連携し、引き続き養成講座を実施していく。
●福祉実践教室	社会福祉協議会	市内小中学校の児童・生徒を対象に、社会福祉への理解と関心を高め、ボランティアや社会連帯の精神を養うことを目的に実施。手話や要約筆記、車いすなどの科目に市内7小中学校で 744 人の児童・生徒が参加した。	体験中心にならないよう、当事者の講話から自分事として学べるようなプログラムの作成・提案をする。
●その他			

単位施策:02 福祉に関する情報発信や啓発イベント等の開催

・地域福祉計画推進フォーラムや福祉フェスティバルといったイベントの開催や広報紙やホームページ、社協だより等の配布を通じ、市民の福祉への関心を高めるとともに、「地域共生社会」の重要性を発信します。また、近年の市民生活における ICT 利用の普及を踏まえ、SNS などの新たな情報発信ツール活用の検討を進め、順次、導入します。

成果指標	現状値	実績値						目標値	実績値に対する分析	担当
	R3	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11		
地域福祉に関する啓発イベントや講座等の開催回数	1 回	3回	4 回	4 回				5 回	地域福祉計画推進フォーラム、福祉フェスティバル、スポーツフェスティバルや夢コンサートを通じて、地域の現状や地域福祉活動の紹介を幅広い市民に対して情報発信することができた。	福祉課 社会福祉協議会

事業		取組内容及び成果	課題及び今後の方向性
●地域福祉計画推進フォーラム	福祉課、社会福祉協議会	地域つながり講演会として「つなぐ・つながる・つなげる先に」をテーマに開催し、32 人参加し、地域でのつながりづくりの重要性を学んだ。	地域づくりの重要性をより広く、より多くの関係者にどう伝えるかが重要になる。
●福祉フェスティバル	社会福祉協議会	地域福祉推進啓発コーナーとして、地域共生社会の実現にむけ、視覚障害に焦点をあてたパネル展示を実施し、2,377 人の住民に周知した。	広く地域住民に啓発できる機会として、関心を高める企画を検討する。
●スポーツフェスティバル・夢コンサート	社会福祉協議会	障害者の多様なスポーツを通じて社会参加を促すスポーツフェスティバルを実施し、当事者 38 人、ボランティア 72 人の参加があった。 誰もが音楽を楽しめることを目的に夢コンサートを開催し、共生社会にむけて令和 7 年度は子ども食堂の利用者へも案内した。 同利用者の参加はなかったものの、全体として当事者 46 人、ボランティア 33	イベントの時だけではなく、既存団体・事業所との連携等を通じ、日常的にスポーツや音楽に触れる機会の創出および社会参加の促進を意識した企画内容を検討する。

		人が参加し、地域住民の障害理解を促進した。	
●広報紙等による情報発信	福祉課、長寿介護課、こども家庭課、社会福祉協議会	社会を明るくする運動映画上映会、児童館や子育て支援センターの事業等を広報紙に掲載した。また、地域つながり講演会等の周知では市公式LINEやフェイスブックを活用し紙媒体と SNS を併用することで幅広い世代への情報発信を図ることができた。	より多くの市民に必要な情報を届けるため、引き続き、各種情報発信ツールを活用して福祉に関する情報発信に努める。
●その他		社会を明るくする運動街頭啓発、ミニ集会を実施するなど更生保護に対する関心を高める取組を行った。 また、認知症に関する映画上映会の開催や認知症勉強会及び声かけ訓練を実施したことにより、地域住民の認知症に対する関心を高めることができた。	高齢化の進展に伴い、認知症となる高齢者の増加が見込まれるため、認知症施策の更なる充実が課題である。 いにくら認知症ケアアドバイザー会や認知症地域支援推進員と連携し、認知症に関する普及啓発、認知症予防、認知症本人とその家族への支援、認知症の人の社会参加などの取組を地域包括支援センターとともに進める。

事務局評価	取組 2	指標 Ⅱ	評価 B	評価理由	啓発イベントや岩倉まちづくり出前講座の開催回数は、目標値を安定して達成・維持している。特筆すべき点として、令和7年度は昨年度の課題を改善し、新たに多世代交流や当事者団体との交流に関わる事業を実施した。既存事業の枠を超え、支え合いの意識づくりに向けた新たな取り組みを展開した点が評価できる。
推進委員評価	B			推進委員評価 判断理由・コメント	啓発イベントの開催回数について目標を安定して達成・維持できている。特に令和 7 年度は令和 6 年度の課題を改善し、多世代交流センター「さくらの家」の指定管理者制度への移行に伴い、新たに e スポーツやドローン体験といった多世代交流事業が実施された点が評価できる。これらの新たな試みにより幅広い世代の関心を集めるとともに、令和 8 年度以降は継続的な実施に加え、イベントへの参加をきっかけとした日常的な地域のつながりや、さらなる支え合いの意識づくりに向けた展開に期待したい。